

2017年(平成29年)

2月17日

金曜日



## デンマークの思想に共感

本で「寝たきり老人がいない国」と評されたデンマークではどんな医療が行われているのか興味があった。そこで、友人の医師とデンマークへ出かけて、保健省副大臣に面会を求めた。ところが、「日本にはどうして寝たきり老人がいるのか」と逆

に質問され困惑した。「人は必ず死を迎える。回復の期待がない状態で人工栄養を行えば死ねなくなる。口から食べられなくなるときに寿命が訪れるのだから、医療が死ぬ権利を奪ってはいけない」と言われた。

長幼の序を重んじ、老いては子に従わんとする儒教精神ともいえる東洋思想のなかで、我々は、本人の意思よりも、家族や子供の気持ちを大切にしたい医療を提供してきた。しかし、ゲルマン系社会の合理的思想に強い共感を覚えた。日本の医療は何かがおかしい。終末期医療の在り方も、退院後の暮らしを支える介護システムがないことにも問題があると思った。考えてみると老人病院とは老人医療を専

門的に行う制度に位置付けられた病院ではない。地域で暮らすにくくなった老人に占拠されてしまった病院なのである。国民皆保険制度は世界に誇れるが、本来であれば、福祉施策によって解決すべき生活課題までも、入院が肩代わりしてきた。認知症の人が、避難所のように病院を利用する風潮が容認され、診療所の待合室には高齢者たちが集い、サロン化する現象も起こっていた。いつも見かける顔がみえないと、病気になるのではと心配される。落語ではない。日本の医療現場の話だったのである。(次回24日)

## とちぎの風

### 人生支える在宅医療

太田秀樹 ⑥



おた・ひでき 1953年、奈良市生まれ。自治医大大学院修了。92年「おやま城北クリニック」開業。現在は医療法人アスムス理事長として在宅医療を推進。